

石下セキカ 數多ノ莖皆著テ、一箇ノ扁キ大莖ト成、縮緬シユン花ノ細カニ縮、月暈グハツエン花ノ紅ナルヲ云フ、濱千鳥ハマチドリ葉  
シク花開モノナク、柳葉ヤナギハノ細長クシテ、柳風ヤナギカゼ看ミ似タル者ヲ云フ、等トナリナリ、牽牛クヱンキウノ花ハ琉璃色ト  
白ハ古ヨリノ常色ナレドモ、今ハ淡紅、深紅、淡紫、深紫、淡藍、流黃ウスイキヨ等モ有テ、且又間道モ綵纈サイセツモ種々  
色ノ間錯タル者アリ、花ノ形狀モ大小長短アリ、瓣切タルアリ、切ズシテ縮タル有リ、八重モ有テ  
變異愈出テ、其名目ヲ記スベカラズ、總テ其筒ノ轉ジタルヲ茶臺ト名ク、

〔草木育種藥品〕牽牛クヱンキウ 藥に入には黑白の二種を用、李氏本草綱目に丁香茄シヤウキヤ苗コノ救荒クウワウを以て白牽

牛クヱンキウとするは誤なるべし、白牽牛は常のあさがほの中にて、種の色白ものなり、近頃江戸大坂にて、  
多植るゆへ種類甚多、悉舉に暇あらず、花の色は碧色は常品なり、紫淡黃紅、又淺青に紺の豎筋あ  
るものあり、又白して筒の紅きあり、又花瓣切たるあり、又切ずして縮たるあり、又花切て瓣多も  
のを亂獅子と名く、又花の筒より細長き花瓣出るを孔雀と名く、又八重あり、筒を轉するものを  
茶臺と云、又葉の形變ものあり、葉小く厚縮たるを宇津川と名く、又葉黃綠色にして綠斑あるも  
のを松島と名く、又葉細長して柳の如きものあり、又絲瓜シキウの葉に似たるものあり、又數多の莖皆  
寄著て莖扁くなり、枝なくして花多開ものあり、是は石下なり、その餘二百餘種あり、

〔嬉遊笑覽キユウセウケン草木十二〕安永七八年、さくら草、形のめづらしきがはやり、權家の贈りものとす、數百種に及  
ぶ、これは下谷和泉橋通りに、谷七左衛門といふ大番與力あり、其人の老母、花を植作る事を好み、  
櫻草を多く植作り、略中其後朝がほを多く作り、さまざまの花出來しかば、この度は六枚折の  
小屏風を葭簀にて作り、細き青竹處々節ある處にて、竹の花生のやうに口を切て、節毎に水を貯  
へ、朝がほの蔓の先、葉一寸ちぎりたると、花一りんとを、花生の口ごとに插み、これを伴の屏風に  
かけならべて、屏風はた、まる、やうに、縁を厚く作るなり、是も人に借して見せたり、この屏風  
はあまた有き、文化五六年の事なりし、一とせ谷氏大坂に在番したる頃は、彼地へ多く牽牛子を